

1 断熱材の熱抵抗R

省エネ仕様
確認する基準は、断熱材の熱抵抗Rです。部位ごとに熱抵抗Rを確認し、性能が低い仕様(熱抵抗Rが小さい方)を記入してください。

1つの部位に複数の仕様が有る場合は、全ての仕様について確認し、性能が低い仕様(熱抵抗Rが小さい方)を記入してください。

3 外張断熱工法

軸組構法・枠組壁工法 共通

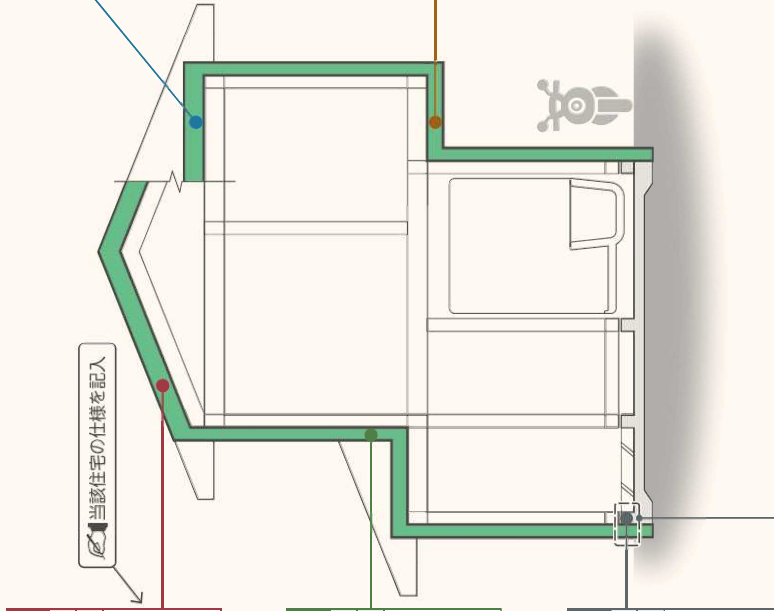
◎1つの部位で複数の断熱工法を採用する場合は、それぞれの工法ごとに基準値を満たす必要があります。
◎1つの部位で断熱材を複層化した場合は、それぞれの熱抵抗の値を合計することができます。

屋根		R ≥ 4.0	
仕様例	押出法ポリスチレンフォームM3種bA 硬質ウレタンフォーム(ボード状)2種D	65+50 mm 45+45 mm	R = 4.1 R = 4.1
製品名 (又は断熱材の種類)		厚さ	R
		mm	

天井 ※上断熱		R ≥ 4.0	
仕様例	押出法ポリスチレンフォームM3種bA フェノールフォームA1種2号C、又はD	65+50 mm 80、又は 40+40 mm	R = 4.1 R = 4.0 以上
製品名 (又は断熱材の種類)		厚さ	R
		mm	

壁		R ≥ 1.7	
仕様例	押出法ポリスチレンフォームM3種bA 硬質ウレタンフォーム(ボード状)2種D	50 mm 40 mm	R = 1.8 R = 1.8
製品名 (又は断熱材の種類)		厚さ	R
		mm	

床 (外気に接する部分)		R ≥ 2.5	
仕様例	押出法ポリスチレンフォームM3種bA フェノールフォームA1種2号C、又はD	75 mm 50 mm	R = 2.7 R = 2.5 以上
製品名 (又は断熱材の種類)		厚さ	R
		mm	



玄関、勝手口等の土間床部分の断熱については、省略することができます。



→ 「断熱材の種類」は P.20 を参照
→ 「熱抵抗 R」は P.19 を参照

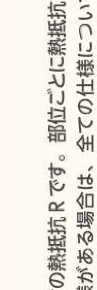
外張断熱工法において、
「床 (その他の部分)」や「土間床等の外周部分の基礎壁 (その他の部分)」
が生じる場合には、充填断熱工法 (P.8 ~ P.11) を参照

1 省エネ仕様

3 外張断熱工法

断熱材の熱抵抗Rを調べる
Web や カタログ等で
断熱材の熱抵抗Rを調べる

製品ごとに
熱抵抗Rが記載されていますので、
断熱材の種類や厚さに応じた
数値を確認してください。



断熱材の熱抵抗Rを調べる

基礎に断熱する場合、防蟻措置が必要な地域においては、別途、断熱材メーカー、建材店等に相談してください。

基礎に断熱する場合、防蟻措置が必要な地域においては、別途、断熱材メーカー、建材店等に相談してください。

基礎に断熱する場合、防蟻措置が必要な地域においては、別途、断熱材メーカー、建材店等に相談してください。

断熱材の熱抵抗Rを調べる方法 (上記以外の仕様も確認できます。)

断熱材協会のホームページで断熱材の熱抵抗Rを調べる

基準に適合する断熱材の具体的な製品については、断熱材協会のホームページに掲載されています。

https://dankenkyou.com/energy_saving.html



Web や カタログ等で断熱材の熱抵抗Rを調べる

製品ごとに熱抵抗Rが記載されていますので、断熱材の種類や厚さに応じた数値を確認してください。

熱抵抗 R [m²K/W]
カタログによって、「熱抵抗値」「熱抵抗 (R 値)」等、表記が異なります。

JIS A 9521:2017に規定された表示方法により求めた熱抵抗 (R)					
厚さ (mm)	断熱材の種類	熱抵抗 R [m ² K/W]	断熱材の種類	熱抵抗 R [m ² K/W]	断熱材の種類
45	押出法ポリスチレンフォームM3種bA	1.3	硬質ウレタンフォーム(ボード状)2種D	1.6	フェノールフォームA1種2号C、又はD
50	硬質ウレタンフォーム(ボード状)2種D	1.5	フェノールフォームA1種2号C、又はD	1.8	フェノールフォームA1種2号C、又はD
55	硬質ウレタンフォーム(ボード状)2種D	1.5	フェノールフォームA1種2号C、又はD	2.0	フェノールフォームA1種2号C、又はD
60	硬質ウレタンフォーム(ボード状)2種D	1.7	フェノールフォームA1種2号C、又はD	2.1	フェノールフォームA1種2号C、又はD
65	硬質ウレタンフォーム(ボード状)2種D	1.8	フェノールフォームA1種2号C、又はD	2.1	フェノールフォームA1種2号C、又はD